

# 名勝 旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅲ

—— 第12次調査 ——

2022

令和4年3月

平泉町教育委員会





観自在王院全景（南から）



調査箇所と毛越寺（南東から）



北区・南区全景（上空から）



調査区全景（上空から）

巻頭カラー-2

## 序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧親自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年（1189）九月十七日条の「寺塔已下注文」に、親自在王院（阿弥陀堂と称す）は基衡の妻（安倍宗任の娘）が建立したこと、小阿弥陀堂も基衡の妻が建立したことが記されています。

親自在王院跡は、昭和27年に国の特別史跡毛越寺跡附鎮守社跡の一部として指定されました。昭和29～31年に平泉遺跡調査会が行った調査によって、園池の北側から大阿弥陀堂及び小阿弥陀堂の痕跡を示す礎石が発見されたほか、園池の南側では棟門跡が確認されています。平成17年には旧親自在王院庭園として名勝に指定されています。

当町では、遺跡の重要性に鑑み昭和47～53年度にかけて地元の方々のご理解とご協力を得ながら史跡整備を進め、史跡の恒久的な保存措置を図りましたが、前回の整備完了から約40年が経過し、平成27・28年度に史跡南西側の公有化を実施したことを契機に、平成30年度より再整備を視野に入れた内容確認調査を開始しました。

本報告書は令和2年度に実施しました第12次調査成果を収録したものです。本次調査では、親自在王院跡の西側を区画する溝跡などが確認されています。

親自在王院跡保存修理事業につきましては、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会・宗教法人毛越寺に対し深く感謝申し上げます。

令和4年3月

平泉町教育委員会

教育長 吉野新平

## 例 言

- 1 本書は令和2年度に国庫補助事業より実施した名勝田親自在王院庭園第12次調査の報告である。
- 2 野外調査期間は令和2年11月20日から令和3年3月25日までである。室内整理期間は令和3年3月31日までである。
- 3 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山山地内である。調査面積は約125㎡である。
- 4 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

### (1) 令和2年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 潤 実

平泉文化遺産センター

所 長 千 葉 登

所 長 補 佐 島 原 弘 征 主 事 鈴 木 理 世

主任主査文化財調査員 菅 原 計 二 調 査 補 助 員 二 階 堂 里 絵

主任主査文化財調査員 鈴 木 江 利 子 調 査 補 助 員 佐 藤 昌 弘

文化財調査員 鈴 木 博 之 調 査 補 助 員 熊 谷 明 美

主 任 佐 々 木 成 淳 調 査 補 助 員 菊 地 道 子

### (2) 令和3年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 潤 実 (～令和3年9月30日)

吉 野 新 平 (令和3年10月1日～)

平泉文化遺産センター

館 長 千 葉 登 主 事 鈴 木 理 世

館 長 補 佐 島 原 弘 征 主 任 萩 山 義 浩

主任主査文化財調査員 菅 原 計 二 調 査 補 助 員 二 階 堂 里 絵

主任主査文化財調査員 鈴 木 江 利 子 調 査 補 助 員 佐 藤 昌 弘

文化財調査員 鈴 木 博 之 調 査 補 助 員 熊 谷 明 美

主 任 佐 々 木 成 淳 調 査 補 助 員 菊 地 道 子

- 5 発掘調査・室内整理は鈴木江利子・島原弘征が担当し、菊地の協力を得た。事務は佐々木が担当した。
- 6 本書の執筆は、鈴木江利子・島原が担当した。
- 7 調査の基準点は平成30年に親自在王院跡に設置した基準点(平面直角座標X系に準拠)をもとに調査員が打設した。
- 8 土層観察の土色は「新版標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄2001)によった。
- 9 調査成果の一部については、平泉町HP等で公表しているが、本書の内容が優先する。
- 10 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った(順不同・敬称略)  
宗教法人毛越寺、文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 11 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査参加者(順不同・敬称略)  
阿部俊春、石川厳覚、石川誠、小野寺啓悦、小野寺富子、春日谷初男、川崎寛、小岩佳美、小松代代、佐々木利雄、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤國雄、佐藤彦悦、佐藤参、佐藤正志、菅原久美子、菅原聡、菅原まつ子、菅原有利、鈴木健一、高橋喜一、高橋純一、千葉一郎、千葉勝也、千葉京子、千葉景姫、千葉セツ子、千葉忠枝、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、鳥畑恵美子、丸山聡子、矢崎静香、矢崎木綿子、吉田琴子

## 目 次

I 位置と環境	1	III 調査の成果	5
II 調査の概要	5	1 検出遺構	5
1 調査目的	5	2 調査概要	5
2 調査方法	5	3 出土遺物	16
		IV まとめ	16

## 表 目 次

第1表 観自在王院跡調査履歴	3	第4表 国産陶器観察表	15
第2表 かわらけ観察表	15	第5表 近世国産磁器観察表	15
第3表 中国産磁器観察表	15	第6表 滓観察表	15

## 図 版

第1図 平泉町の位置	1	第7図 断面図(1)	11
第2図 観自在王院跡第12次調査位置図	2	第8図 断面図(2)	12
第3図 観自在王院跡第11・12次調査区	4	第9図 断面図(3)	13
第4図 観自在王院跡第12次調査全体図	8	第10図 第10～12次遺構配置図	14
第5図 北区平面図	9	第11図 出土遺物	15
第6図 南区・南東区平面図	10		

## 写 真 図 版

写真図版1 調査区全景・柱穴	18	写真図版8 石敷・2号溝(3)	25
写真図版2 根石状箇所	19	写真図版9 南東区(1)	26
写真図版3 北区	20	写真図版10 南東区(2)	27
写真図版4 北区 1号溝	21	写真図版11 南区・南東区	28
写真図版5 石敷・2号溝(1)	22	写真図版12 調査前・終了状況	29
写真図版6 石敷・2号溝(2)	23	写真図版13 出土遺物	29
写真図版7 石敷	24		





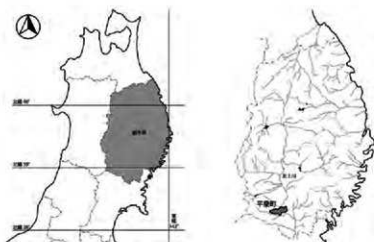
# I 位置と環境

## 1 観自在王院跡の位置

平泉町は、岩手県の南部に所在する人口約7,200人、面積約64平方kmの小さな町である。東側は東楡山(595.7m)、音羽山(539m)、観音山(325.2m)が連なる北上山地、西側は奥羽山脈に続く標高100～200m前後の丘陵地に囲まれ、中央部には北上川が南流し、その両側に田園地帯が広がっている。南側を一関市、北側を奥州市に接している。

平泉は、12世紀に奥州藤原氏の拠点として栄えたが、源頼朝によって1189年に滅亡する。その繁栄と滅亡の歴史は、多くの詩歌を喚起する素材

となり、1689年平泉を訪れた俳人の松尾芭蕉をはじめ、多くの文人たちを惹きつけ、往時を偲ばせている。平成23年には町内に所在する5つの史跡名勝が「平泉―浄土を表す建築庭園及び考古学的遺跡群―」として世界遺産登録され、旧観自在王院庭園もその構成資産の一つとなっている。



第1図 平泉町の位置

## 2 観自在王院跡の現状

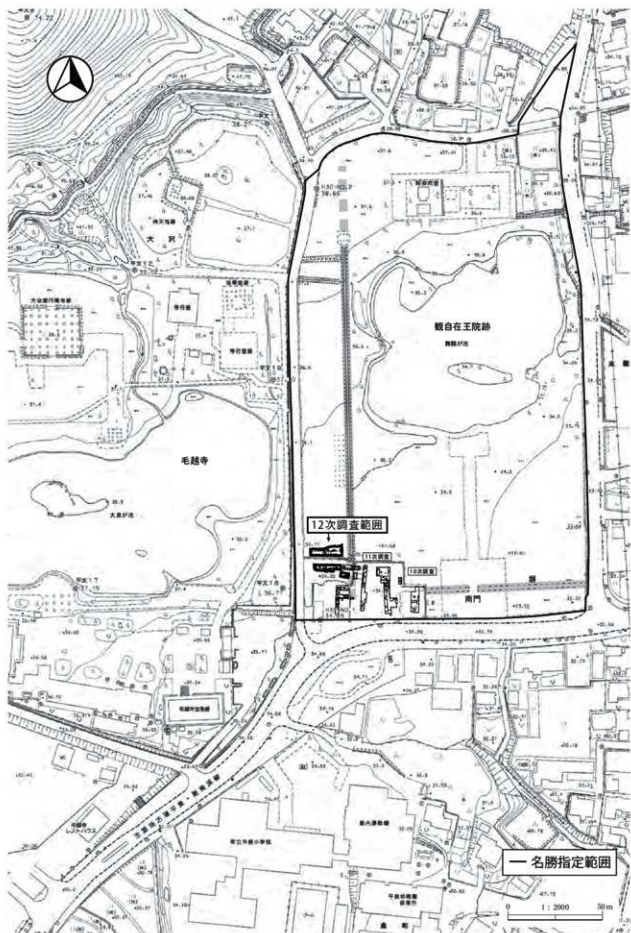
観自在王院跡は毛越寺の東隣に位置する。「吾妻鏡」には観自在王院(阿弥陀堂と称する)は基衡の妻(安倍宗任の娘)が建立したと、小阿弥陀堂も基衡の妻が建立したことが記されている。

境内の大きさは南北250m、東西120mを測り、敷地の北側に大阿弥陀堂・小阿弥陀堂などの主要堂宇が建ち、その南側には中島を擁する舞鶴が池と呼ばれる大きな園池が位置する。

昭和29～31年に平泉遺跡調査会によって行われた1～3次調査によって、園池の北側から大阿弥陀堂及び小阿弥陀堂の痕跡を示す礎石が発見されたほか、園池の南側では棟門跡が確認された。昭和47～52年には史跡整備に伴う内容確認調査(4～8次)が行われ、新たに西門跡、導水路、牛車を取める車宿が見つかった。導水路は池西側にある滝石組から供給されているが、滝石組に接続する導水路は西側土塁付近を暗渠でくぐり、毛越寺裏にある弁天池を取水源にしていることが確認された。なお、暗渠に用いられた材木は全てクリ材であった(調査履歴は第1表参照)。

前述の平泉遺跡調査会による調査の後、平泉町は「平泉町文化財保護基本計画」を策定し、「観自在王院跡保存整備計画」に基づき観自在王院の復元的整備を実施することとした。計画は①土地の公有化と整備、②文化財の管理保護、に重点を置いたもので、文化財に対する国民の親しみと理解を深めることがねらいであった。土地の公有化は昭和42～50年度まで行い、整備事業は一部公有化と同時進行となるが、昭和49～53年度に実施している(平泉町1979)。

その後、平成17年に名勝旧観自在王院庭園として指定され、昭和27年の特別史跡指定と併せて、史跡・名勝の二重指定を受けた。平成27・28年には昭和整備の際に公有化できなかった史跡南西側の公有化を実施した。整備完了から40年が経過し老朽化等の課題もあったことから、史跡南西側の整備に併せて、これらの課題解消のための再整備事業が求められ、平成30年度より整備に必要な情報を取得するための内容確認調査を開始した。



第2図 觀自在王院跡第12次調査位置圖

第1表 観自在王院跡調査履歴

次数	主 体	原 因	期 間	面積㎡	内 容
1	平泉遺跡調査会	内容確認	S291011～1110		・伝大阿弥陀堂跡、伝小阿弥陀堂跡、中間地区、伝鐘樓跡、伝音響堂跡、中島、池跡（滝石組、東北岸）の調査
2	平泉遺跡調査会	内容確認	S301005～1109		・伝大阿弥陀堂跡、伝小阿弥陀堂跡、中間地区、南門跡、池跡（東北岸）の調査
3	平泉遺跡調査会	内容確認	S311009～1125		・伝大小阿弥陀堂北側を調査したが、遺構は確認されず。
4	平泉町教育委員会	復元整備	S471023～480323	400	・池等水路及び中島規模の確認を目的とした調査で、導水路は滝石組から西側土塁下を暗渠でめぐり毛越寺方向に延びていることを確認した。
5	平泉町教育委員会	復元整備	S481014～1122	454	・北西畔平坦地の遺構の有無、西側土塁の追跡、中島東岸と音響堂の調査を実施。
6	平泉町教育委員会	復元整備	S500728～1105	341	・大阿弥陀堂跡南側と南門の調査を実施。前者は遺構が確認されず。後者は池南岸から約80m南で径36cm程の柱2本で構成された門を確認。双方の柱の間隔は4.5mを測る。また、貝形柱の可能性のある15cm角の柱を確認した。
7	平泉町教育委員会	復元整備	S510913～1014	414	・北西部を対象に調査を実施し、西門跡を確認。桁行1間（4.8m）、梁間2間（3.6m）の四脚門で、主柱は掘立柱、輔柱は礎石で構成されることを確認。
8	平泉町教育委員会	復元整備	S521011～1203	1,410	・西門跡と大阿弥陀堂跡との間及び池跡南側と西側土塁跡を対象に調査を実施。前者は遺構が確認されず。後者からは桁行10間（27.5m）、梁間2間（4.6m）の掘立柱建物を確認。四周に雨垂溝が廻る。『吾妻鏡』に記載のある車宿の遺構と確認。
9	平泉町教育委員会	水道更新、 道路整備	H070127～0228 0821～1020	180	・町道舞鶴池線の舗装、水道工事に先立つ発掘調査。 ・近世末～近代にかけての瓦窯跡1基、瓦と窯道具の廃棄土坑1基、陶器窯道具が出土した近代以降の溝跡3条が確認された。
10	平泉町教育委員会	内容確認	H301029～1203	185	・観自在王院跡の南側を区画する廊下や造営時の整地層とともに、廊下南から、毛越寺及び観自在王院跡の南に隣接する東西大路の北側の側溝を検出したが、廊下と若干方向が異なっていた。
11	平泉町教育委員会	内容確認	R011031～1209	125	・観自在王院跡の西側を区画する土塁跡を確認したが、南西隅付近は攪乱が著しく区画施設は失われていた。 ・西側の区画施設は版築とはいえない盛土で構成されており、築地層というよりは土塁に近いと考えられる。
12	平泉町教育委員会	内容確認	R021120～030325	125	・観自在王院南西側を対象の調査を行い、溝3条、南北方向の石敷、板石の可能性のある集石、柱穴を確認した。12SD2は11次調査で確認した11SD2の続きと考えられる。石敷はSD2と重なるものの溝が途切れていることから、通路と考えられる。

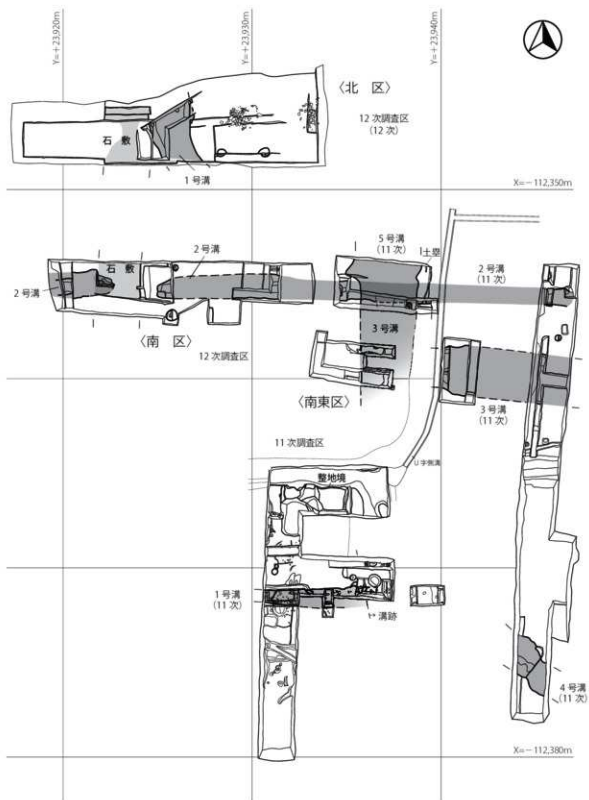
## 参考文献

藤島実治郎1961 『平泉 毛越寺と観自在王院の研究』

平泉町1979 『観自在王院跡整備報告書』

平泉町教育委員会2020 『名勝旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅰ』岩手県平泉町文化財調査報告書第135集（10次）

平泉町教育委員会2021 『名勝旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅱ』岩手県平泉町文化財調査報告書第139集（11次）



第3図 観自在王院跡第11次・12次調査区

## Ⅱ 調査の概要

### 1 調査目的

将来的な史跡南西側整備を目指した内容確認調査で、今年度が3年目にあたる。観自在王院跡はこれまで、平泉遺跡調査会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め12回の調査が行われてきている（調査履歴は、第1表を参照）。12次調査は、観自在王院跡南西側を対象に調査を行った。

### 2 調査方法

**グリッド** 今回の再調査に併せて観自在王院跡の周辺に基準点を打設し、遺構実測や遺物出土地点の記録等の実測作業の基準とした。

なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。今回の基準点の数値は、周辺の調査成果との整合ができるよう変動前の数値（測地成果2000）に変換した測量成果を使用している。

**粗掘・検出** 遺構検出面まではスコップもしくは移植ベラで表土層を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。ただし、昭和の整備で施された玉石敷や攪乱は重機によって剥いている。

**精査** 基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層位等を確認するため整地層・溝は部分的にサブトレンチを入れ、土坑・柱穴は半裁までに留め調査を行った。

**遺構名** 複数次にまたがる遺構があることから、12次調査1号溝であれば12SD1のように遺構略号の前に次数を表記し判別できるようにした。

**記録** 遺構の実測は、平板測量もしくはグリッドを1×1mに分割したメッシュを用いて測量した。遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ（ニコンD90）をメインカメラとし、遺構及び調査全景写真時には、メインカメラに加えて6×7版カメラ（リバーサル）で撮影を行った。

**埋め戻し** 山砂で遺構面を覆い、その上に調査で掘削した土を埋めた。

**普及活動** 現場は随時公開し調査に支障がない範囲で説明等を行った。調査成果は、「広報ひらいずみ」等で公表している。

## Ⅲ 調査の成果

### 1 検出遺構

検出遺構は柱穴4個、根石状箇所2箇所、溝跡3条、石敷き、整地層などである。埋土の状況から12世紀に帰属する遺構が主体を占めるが、観自在王院の造営以前の遺構も含まれている。

### 2 調査概要

調査地点は、観自在王院の南西側にあり、11次調査の西側から北側に位置する。南区と南東区では溝の延長部や整地層の続きが確認されている。また、北区は昭和の整備範囲の端に設けている。現状は生垣によって隔てられているが、南・南東区と関連した遺構が続いている。

調査は11月20日から開始したが、12月に入り数十年ぶりの大雪が当地方を襲った。この大雪は一週間続き、観自在王院や隣接する毛越寺をはじめ、町内全域に倒木や枝折れが広がり深刻な被害をもたらした。一週間連続して大雪が続き調査を継続する事が困難であったため、調査を一時中断し、雪解けを待って3月初旬に調査を再開し、何とか3月末に終了することができた。

## (1) 柱穴・根石状箇所

柱穴は、南区で2個(P1・P2)、北区で2個(P3・P5)検出している。P4は当初柱穴と判断していたが、P3と5の間の粘土層であることが確認され、柱穴ではなかったため欠番とした。北区の柱穴は整地層が柱穴上面を覆っており、整地以前に帰属すると考えられる。そのため整地層下にそれ以前の柱穴が残存している可能性が残されているが、遺構保護の観点から、整地層を温存しての調査であったため検出が困難で、精査が及んでいない可能性がある。また、北区東側で根石状に石が集まる2か所を検出している。西側を根石状箇所1、東側を根石状箇所2とした。

No	掘り方・集石範囲 (cm)	柱痕跡 (cm)	検出標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物他
P1	30 × 25	15	35.05	34.73	32	かわらけ片出土
P2	58 × 60	-	35.08	-	[6]	石充填、根石か不明 かわらけ片出土
P3	36 × 54	-	35.02	34.84	18	
P5	45 × 40	-	34.94	34.49	45	焼物の種出土
根石状1	100 × 100	-	35.05	-	-	
根石状2	155 × 110	-	34.85	-	[10]	

### 柱穴

P1：南区の整地層上から掘り込まれていて、P2とは2.5mの距離にある。石敷に沿うようにあることから関係した施設とも考えたが、他に伴う柱穴が検出されていないため、他遺構との関連性は不明である。

P2：P1近くで検出し、一連の柱穴と思われたが、石が充填されている様相から別の遺構と思われる。石の大きさは2～15cmで、小さめのもが認められるが根石のような検出状況であった。断割をしていないため不明確ではあるが、掘り方に詰めた可能性も考えられる。

P3：北区の東側に検出した、径50～60cmで碗状の断面をしている。柱痕跡は認められない。

P5：P3に近い箇所からの検出で、整地層が上面に広っており整地層より古い遺構である。P2より大ぶりの石が土と共に上層に埋められていた。種が1点出土した。

### 根石状箇所

<位置・検出状況>北区東寄りに位置し、東西方向で並列する形で2箇所確認している。中心間の距離は3.5mを測る。10～20cm大の石が0.9～1.2mの範囲に広がっており、礎石下の根石と思われるような検出状況であった。また、構成する石は現位置を留めているものと、そうでないものが混在している。昭和整備の層に近いため、整備時に影響を受けた部分があるのかもしれない。

<根石状箇所1>後述する2よりも広範囲で確認したが、上位より攪乱を受けており、上部の石は本来の位置を留めていない。根石に伴う掘り込みは確認できなかった。後世の攪乱を受けていること、掘り込みが不明瞭な状況から、上部は失われた可能性が想定される。

<根石状箇所2>東側にトレンチを設け、断面を確認しているが、遺構保護のため石の検出までに留めた。上部は整地と思われる粘土層に覆われている。一部掘り込みが確認されたが浅い状態である。

## (2) 溝跡

北区、南区、南東区で各1条ずつ計3条検出した。12SD3（3号溝）は11SD5の続きであり、12SD2（2号溝）は11SD2の続きである。

遺構名	検出長 (m)	幅 (m)	深さ (m)	方向	検出標高 (m)	底面標高 (m)	検出位置
1号溝	3.4	2.16~1.76	0.47~0.56	北東-南西	34.98~35.07	34.51	北区
2号溝	11.6	1.27~0.90	0.47~0.46	西-東	34.80~35.07	34.33~34.61	南区
3号溝	2.2	[1.7]	[0.47]	北-南	34.48~34.68	34.48~34.68	南東区

### 1号溝 (12SD1)

- <位置・検出状況>北区で検出した溝で、南北方向から東西方向に曲がる角の部分を検出した。
- <規模>検出距離は3.4m、幅は北側で2.16m、南側で1.76mを測る。
- <断面状況>断面25-26では14層から上で一度浅深したかのような様相を呈している。
- <出土遺物>遺物は上面から白磁皿 (No 2) を出土したが、後世の層の直下であり、溝に伴うとは言い難い状況である。自然木が少量出土している。周辺には整地層があり、整地に類似した土で埋め戻される状況からは、整地との時期差はあまり感じられない。
- <年代>整地層下にあることから、親自在王院以前の遺構の可能性がある。

### 2号溝 (12SD2・11SD2)

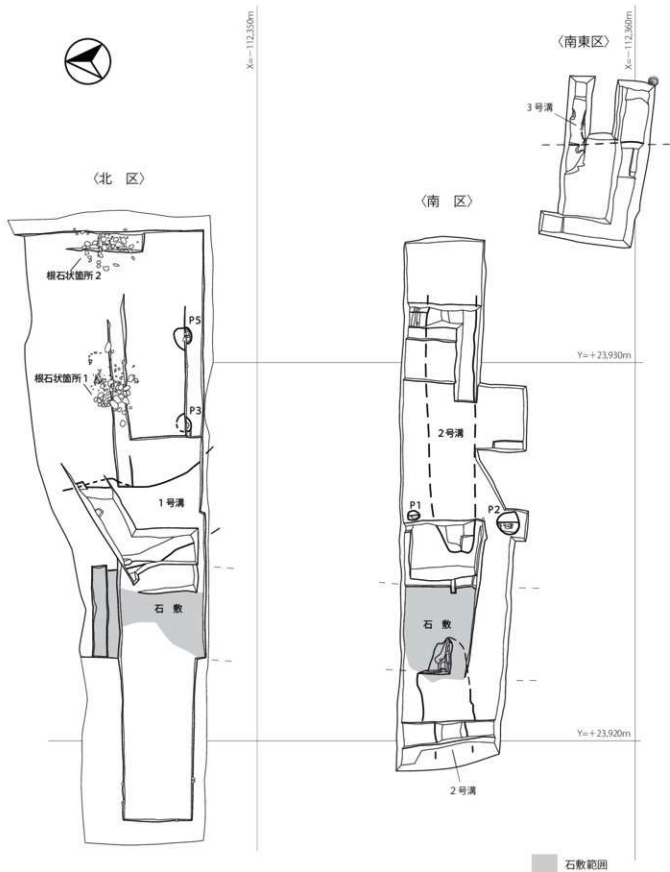
- <位置・検出状況>南区は、11SD2 追跡のため11次調査区の西延長方向に設定した調査区である。2号溝は想定通り、東西方向に長く検出した。整地層の下に位置する遺構であるため、部分的にトレンチによる断面観察を主体とした調査を行った。
- <延長>調査区内では11.6m、11SD2 と合わせると約28mを測る。南区の西寄りの箇所では溝が途切れ、約1m離れた位置から、一連と考えられる溝が確認された。
- <石敷との関係>溝が途切れている箇所は丁度石敷の箇所であり、石敷と関連することも考えたが、溝の立ち上がり石敷の下に入り込んでいたため、本遺構の方が古いと思われる。
- <規模>幅は0.9~1.28mで、石敷より西側で検出した部分は東側より狭くなっている。底面は西から東に下がっており高低差は22cmを測る。
- <出土遺物>木片を数点出土しているが、加工痕は確認できないため自然のものと思われる。また桃類と思われる種を出土したが潰れている。
- <年代>12世紀。ただし、石敷及び整地層より古い遺構であることから親自在王院より先行する遺構と考えられる。

### 3号溝 (12SD3・11SD5)

- <位置・検出状況>南東区に位置する。前年の11SD5の南側に続いた箇所、一連の溝と考えられる。西の肩から法面の途中まで精査しており、11SD5と同様に溝の中に石が堆積した状態を確認している。
- <規模>東側の上場や底面は確認していないが、深さ65cmまで調査している。11次と合わせた検出距離は7m弱で、軸方向はほぼ真北である。
- <新旧関係・帰属時期>周辺は親自在王院造営に伴う整地層が厚く広がっており、同層から掘り込んでいるため、親自在王院に関する12世紀の遺構と考えられる。前回の調査において(新)11SD5→整地層→11SD2(旧)という新旧関係が確認されており、今回の調査に置き換えると(新)12SD3→整地層→12SD2(旧)という新旧関係となる。
- <出土遺物>かわらけ片数点が出土し、No1のロクロかわらけを掲載した。

## (3) 石敷

- <位置>北区から南区にかけての西側で検出した。
- <検出状況・規模>北区から南区にかけて10m程度の範囲であるが、北側は後世の擾乱の影響が大

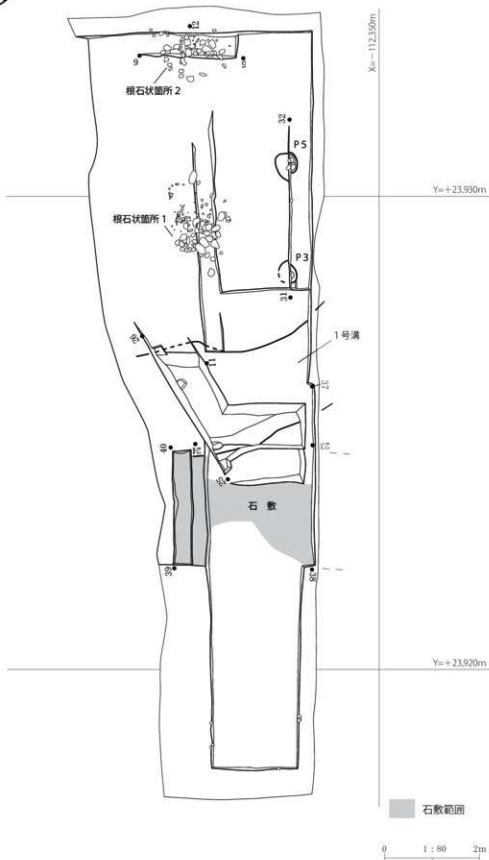


第4図 観自在王院跡第12次調査全体図

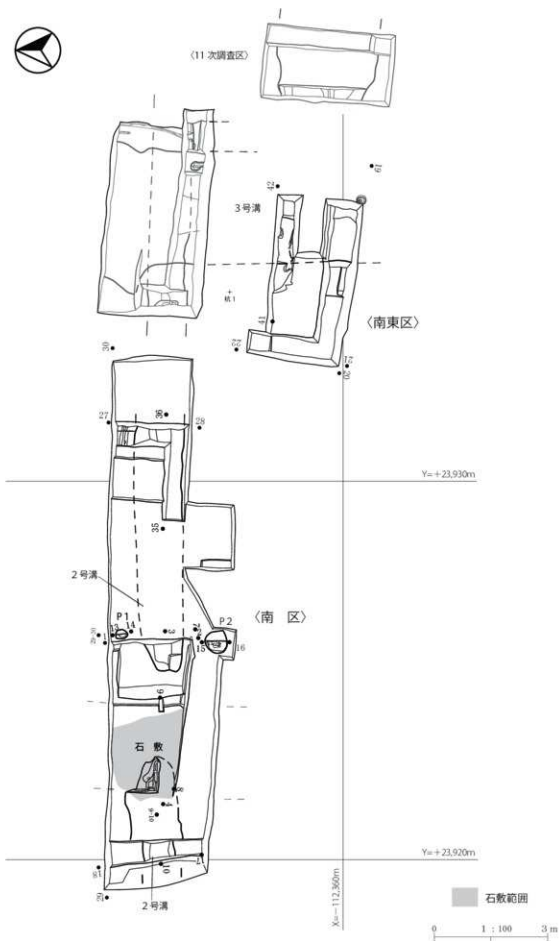




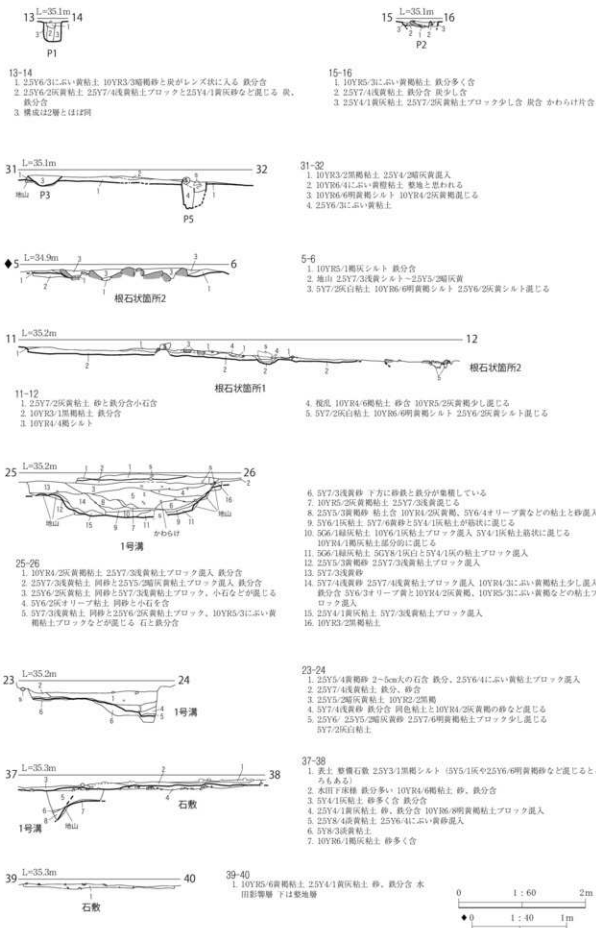
〈北区〉



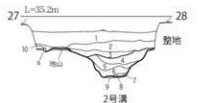
第5図 北区平面図



第6図 南区・南東区平面図

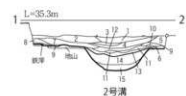
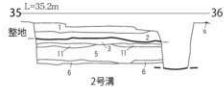


第7図 断面図(1)



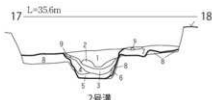
27-28・35-36共通

1. 5Y7/2R白粘土 5Y5/3Rオリーブ砂混入
2. 25Y8/3R黄粘土 25Y6/2R黄粘土ブロック混入 砂、鉄分含
3. 25Y5/1黄シルト 鉄分含
4. 10YR5/2R黄粘土 25Y7/2R黄粘土が散状に入る
5. 25Y7/4R黄粘土 25Y4/1黄粘土と砂混入
6. 25Y6/2R黄粘土 25Y5/1黄粘土砂混じる
7. 25Y6/2R黄粘土
8. 5Y4/1R砂
9. 25C/16/1オリーブ灰粘土
10. 25Y3/6黄粘土
11. 25Y6/6明黄粘土 10YR5/2R黄粘土ブロック少し含



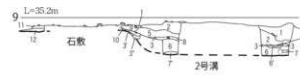
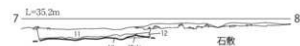
- 1-2
1. 10YR5/6黄粘土 5Y8/3R黄粘土上と砂混入
  2. 25Y7/2R黄粘土 25Y6/2R黄粘土と砂少し混じる
  3. 5Y7/3R黄粘土

4. 5Y7/3R黄粘土 砂多く混入 中央部には10YR5/2R黄粘土混入
5. 5Y7/2R白粘土 鉄分含 10YR5/6黄粘土、25Y6/2R黄粘土少し混じる
6. 25Y7/4R黄粘土 10層上には25Y5/1黄粘土砂多く入る
7. 25Y6/2R白粘土 25Y5/1黄粘土と25Y7/6明黄粘土少し混入
8. 25Y7/4R黄粘土 25Y4/2R黄粘土と6/3Cに多い砂混入
9. 25Y5/3黄粘土 10YR5/2R黄粘土 砂 鉄分少し混じる
10. 25Y6/4Rに多い黄砂
11. 7.5YR6/8黄粘土
12. 5Y7/2R白(シルト-) 粘土 砂と10YR5/2R黄粘土少し混入
13. 25Y6/2R黄砂 粘土含 鉄分含 中央部は粘性有
14. 10YR2/2R黄粘土 5Y7/2R白粘土ブロック混入 鉄少し含
15. 10YR4/1R黄粘土 砂多く含 特に14層直下に集中 25Y7/2R黄粘土ブロック混入



- 17-18
1. 5Y7/3R黄粘土ブロック 5Y7/2R白ブロック混入 鉄分含 炭少し含
  2. 25Y7/6明黄粘土

3. 25Y4/1黄粘土 5Y4/1R粘土と5Y3/1オリーブ黒粘土(砂混じる) カーボン結核に入る
4. 10Y6/1R粘土 砂少し含 5Y4/1R粘土ブロック混入 上方に25Y5/2R黄粘土と鉄分混入
5. 25C/17/1明オリーブ灰(=5Y7/1R白) 粘土 5Y5/1R粘土混入
6. 10Y7/2R白粘土 砂少し混じる 5の明オリーブ灰粘土も少し混じる
7. 25Y4/1黄粘土 同砂混入 25Y6/2Rに多い黄粘土小ブロック混入 鉄分・カーボン含
8. 堆土 25Y7/2R黄粘土 25Y6/6明黄粘土ブロック混入 鉄分含 25Y7/3R黄粘土 25Y6/2Rに多い黄砂ブロック
9. 25Y5/1黄粘土

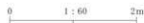


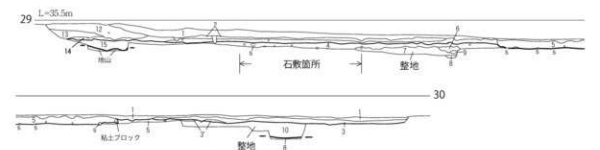
- 7-8・9-10共通
1. 5Y7/3R黄粘土ブロック 5Y7/2R白ブロック混入 鉄分、炭少し含
  2. 5Y7/3R黄粘土ブロック 25Y6/2R黄と25Y5/2R黄粘土ブロック混入 炭少し含み鉄分含
  3. 25Y3/1R黄粘土

1. 10YR4/2R黄粘土 砂、鉄分含(表土鉄分層の下にある)
2. 10YR5/6黄粘土ブロック 25Y4/1黄粘土ブロック混入
3. 25Y5/3黄粘土(10YR5/2R黄) 25Y5/2R黄砂 鉄分含
4. 10YR2/2R黄粘土 5Y7/2R白粘土ブロック混入 鉄少し含
5. 10YR4/1R黄粘土 砂多く含 特に14層直下に集中 25Y7/2R黄粘土ブロック混入

3. 25Y5/2R黄砂 10YR7/2Rに多い黄粘土と砂の小ブロック少し混じる 炭少し含
3. 10YR4/2R黄粘土 25YR/3R黄粘土ブロック少し混入
4. 25Y5/2R黄粘土
5. 5Y6/1R砂 25Y7/6明黄粘土と25Y5/1黄粘土も少し混じる
6. 10YR4/1R黄粘土 炭結核砂少し有
6. 25Y4/1黄粘土 炭結核に含
7. 5Y6/1Rシルト しまり有
7. 5Y7/1R白と10Y7/1R白多い 25Y4/1黄粘土少し混じる
8. 25Y5/2R黄粘土 25Y6/2R黄砂と25Y6/6明黄粘土ブロック混入
9. 10YR5/6黄粘土 鉄分多く含
10. 10YR4/2R黄粘土 炭少し含
11. 10YR4/6明 砂地層
12. 10YR4/2R黄粘土シルト-砂 25Y7/2R黄粘土ブロック少し混入

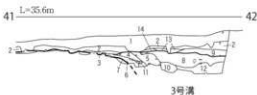
第8図 断面図(2)





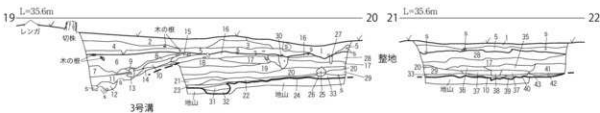
29-30

1. 25Y3/2照棚シルト 草根混
2. 25Y4/2照灰黄粘土 鉄分含 木田層
3. 25Y4/2照灰黄粘土 鉄分多く 10YR5/6黄褐色を呈する 木田下床
4. 25Y4/1照灰シルト 砂 鉄分含 25Y6/6明黄褐色土混入
5. 25Y4/1照粘土 鉄分含 木田
6. 5Y7/2灰白粘土
7. 25Y7/2照黄粘土 25Y4/1黄灰粘土ブロック混入
8. 地山 25Y5/2照灰黄砂
9. 25Y4/1黄灰 25Y5/3黄褐色土ブロック混入 砂含
10. 5Y7/2照白粘土 5Y7/3灰黄砂混入
12. 25Y2/1照シルト 25Y6/4Cにふい黄粘土ブロック混入 階め立て層
13. 10YR3/1照黄粘土 灰。地土混濁に混じる
14. 10YR5/8照黄粘土 12. 13層下の14層には砂。小石含
15. 10YR3/2照黄粘土 10YR4/2照黄褐色土混 鉄分、砂含



41-42

1. 25Y3/1照棚シルト 根多い
2. 25Y4/2照灰黄粘土 砂 鉄分含
3. 25Y5/2照灰黄粘土 砂 鉄分含
4. 25Y5/3黄褐色粘土 砂少し 鉄分含
5. 10YR4/2照灰黄粘土 砂、鉄分含 25Y7/3灰黄砂状 土ブロック混入
6. 10YR3/2照黄粘土 砂、鉄分、灰含 25Y7/4灰黄粘土粒状に混じる
7. 25Y6/4Cにふい黄粘土 25Y4/1黄灰粘土混入 鉄分、灰混入
8. 25Y6/3Cにふい黄粘土 25Y5/2照灰黄粘土ブロック、鉄分混入 灰少し混じる
9. 25Y5/3黄褐色シルト 25Y7/6明黄褐色土小ブロック混入 鉄分多く含
10. 25Y4/2照灰黄粘土 砂多く含 鉄分、灰含
11. 25Y5/2照灰黄粘土 鉄分含 濁水砂
12. 25Y5/1黄灰黄粘土 鉄分含 木の根混入
13. 25Y5/2照灰黄シルト 砂、鉄分含
14. 25Y4/2照灰黄粘土 鉄分多く明黄褐色の混濁

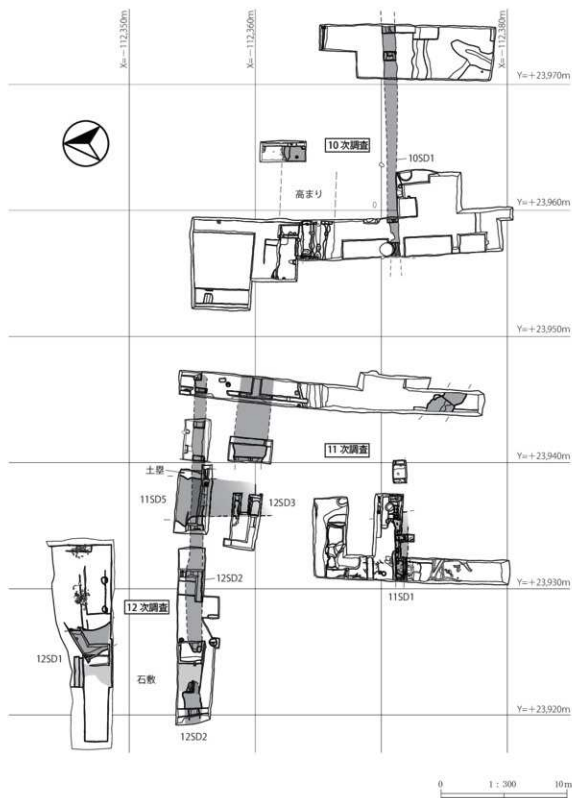


19-20 - 21-22

1. 25Y2/1照棚シルト 現代洗跡 暗褐色小石入る
2. 表土 10YR3/2照棚シルト 根が張っている
3. 木田層 25Y5/3黄褐色シルト 鉄分少し含
4. 木田層 25Y5/3黄褐色シルト 鉄分少し含
5. 木田層 25Y5/2照灰黄砂 粘土含 鉄分含
6. 10YR5/2照灰黄粘土 砂多く含しまりある 鉄分含
7. 5Y6/2照オリーブ粘土
8. 25Y7/3照黄粘土 鉄分含
9. 25Y4/2照灰黄粘土 25Y6/2照灰土混じる
10. 25Y5/2照灰黄粘土 鉄分含 10YR4/2照灰黄褐色土混入
11. 5Y7/2照白粘土 木の根が入り込んでいる 鉄分少し含
12. 5Y4/1照粘土 砂、鉄分少し含
13. 10YR4/2照黄褐色粘土 灰含 25Y7/2照黄粘土ブロック、鉄分含 木の根の跡か
14. 10YR3/2照棚シルト 25Y7/4灰黄粘土ブロック混入
15. 10YR4/3Cにふい黄褐色土 25YR3/6黄褐色土ブロック混入、鉄分含
16. 25Y4/2照灰黄シルト 砂含 25Y7/6明黄褐色土ブロック混入 鉄分含
17. 5Y7/3照黄粘土 25Y6/4Cにふい黄の砂多く含
18. 5Y7/3照黄褐色土 5Y6/2照オリーブの砂部分に混入
19. 5Y7/2照白粘土 5Y6/3オリーブの砂混入 灰少し混じる
20. 5Y7/2照白粘土 同砂混じる 5Y6/1照粘土混じる
21. 5Y7/2照白粘土 鉄分含
22. 25YR3照黄粘土 鉄分含+10YR6/8明黄褐色の混濁が多い
23. 5Y6/1照粘土 砂混じる 25Y7/2照黄粘土ブロック少し混じる
24. 25Y5/2照灰黄粘土 砂含
25. 25YR3照黄粘土 25Y6/2照黄砂、鉄分混入
26. 10YR5/3Cにふい黄褐色土 下方に同色砂と10YR8/2照白粘土ブロックが堆積
27. 現代洗跡か 10YR5/1照灰黄粘土 25YR3/6黄褐色土ブロック混入
28. 5Y7/2照白粘土 5Y7/4照黄砂含 鉄分含 25Y5/2照灰黄粘土混入する
29. 5Y7/3照黄粘土 5Y6/2照オリーブ粘土ブロック混入
30. 25Y4/2照灰黄粘土 砂と小石混じる 5Y7/2照白粘土ブロック少し混じる
31. 5Y7/2照白粘土 5Y6/1照粘土混入
32. 25Y7/1照白粘土と5Y6/1オリーブ粘土の灰土ブロック構成 25Y5/1黄灰粘土少し混じる
33. 25Y5/1照粘土 砂混じる 25Y4/1照灰粘土混入
34. 25Y5/4照黄粘土 25YR3/6黄褐色土ブロック混入 砂含
35. 5Y7/2照白粘土 鉄分含
36. 5Y6/2照オリーブ粘土 砂含
37. 5Y6/2照オリーブ粘土 砂含
38. 10Y6/2オリーブ灰砂 25Y5/2照灰黄粘土が下方にある 洗水洗跡
39. 5Y6/4オリーブ黄粘土 下に薄く5Y6/2照オリーブの砂が堆積
40. 25Y7/6明黄褐色土 25YR4/4Cにふい黄の砂混じる
41. 5Y7/3照黄粘土 鉄分含
42. 5Y7/3照黄粘土 5Y7/3照黄砂混入
43. 25Y5/2照灰黄粘土 砂混じる 灰少し含

第9図 断面図 (3)





第10図 第10～12次遺構配置図

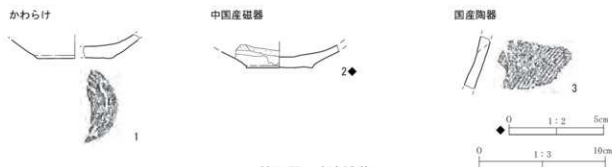
きく、石の敷かれた密度は薄い状態である。東西の検出幅は1.6～2.0m程であるが、擾乱の影響から、実際の幅は不明である。構成する石の大きさは5cm前後で、たたき締めた様子ではなく単層である。<帰属年代>12世紀。親自在王院に伴う西側土塁や3号溝とはやや並行する位置関係にあるものの、毛越寺と親自在王院との間にある南北道路の玉石敷とは様相が異なっており、即断はできない。道路との関係性を整理した上で判断する必要がある。

#### (4) 整地

南・南東区：南区や南東区では表土や畑の耕作土（層厚20～30cm）下から整地層の広がりを検出した。この整地層は親自在王院を造営する際に施された層と考えられる。

<規模>厚さは、南区の東側で20cm、西側では30cm程度（断面29-30）で、南東区では30～40cmを測る。

<整地層の下の様相>整地層下には褐灰から黒褐色の薄い自然堆積層が地山との間に介在している。



第11図 出土遺物

第2表 かわらけ観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			残存率 (%)	年代	備考	登録No
					口径	底径	器高				
1	11	13	南東区3号溝	ロクロ	-	6.2	[1.9]	20	12c		58

第3表 中国産磁器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
2	11	13	北区1号溝北側トレンチ 上面	白磁	罎	底部	12c	VI-1類 底径3.5cm	36

第4表 国産陶器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
3	11	13	重機対応	常滑	甕	胴部	12c	押印	1-3

第5表 近世国産磁器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
4	-	13	南トレンチ 表土	磁器	小碗	底～口縁部	近世	肥前産 寿文皿	26

第6表 滓観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	大きさ (cm)	重量 (g)	磁着	種類	備考	登録No
5	-	-	北区1号溝北トレンチ 上面	1.5～1.8×0.9～1.2	3.3	有	鉄滓	小片2点	37-2

南区東側では標高35.5m、東側に緩く下がっていて、南東区の東側では34.7mで検出している。

北区：1号溝周辺で確認し、石敷の下にも続く様相を呈する。1号溝の西肩側では20cm程度、東側では2～3cm程度である。ここから地形は東にやや下がっているが、整地は薄く確認できなかった箇所もある。

＜検出標高＞整地上面は西側で35.2m、1号溝東では34.8m、東端では整地は無く、地山が34.8mで検出している。

＜整地下の状況＞南区や南東区と同様に褐灰から黒灰の薄い層が広がっていた。1号溝の西では34.9mで検出し、薄く広がる様子であったが1号溝東では20cm厚の箇所も一部あり、整地と混じる様子がみられた。東側には検出していない。

### 3 出土遺物

かわらけ片少量、中国産磁器1点、国産陶器1点が出土した。他に最近まで周辺に住宅があった事で、近世近代の瓦や磁器、また、親自在王院南西側にかつてあった近代の窯跡に調査区が隣接していたため、窯に使われていたと思われるレンガや焼土塊も表採もしくは表土中から確認している。また、整地より新しい遺構では遺物が少量ではあるが出土しているものの、整地層以前の遺構には、遺物が出土しない傾向があることに留意する必要がある。

かわらけは、南東区3号溝と南区P1・2から出土しているが、他の溝や柱穴からは出土していない。破片主体のため掲載できたのはNo1のロクロかわらけのみであった。陶器や磁器も整地層上や表土層から出土したが、破片の上には量は少なく、形の分かるNo2の白磁皿、No3の常滑甕片、No4の近世陶器を掲載している。No5の鉄滓は写真掲載した。

## IV まとめ

12次調査では、前回の11SD5に続く溝（12SD3）を確認するとともに、新たに北区で溝1条と根石状の集石を2箇所確認した。根石状の箇所は、親自在王院跡より古い東西方向の溝である12SD3とほぼ同一方向に位置する。また、P3やP5もかわらけを出土しない点からは古い遺構の可能性はある上に、軸線が12SD2に沿っている点が気になる。

今回の調査区は親自在王院造営以降、毛越寺と親自在王院との間に介在する南北道路の中に位置する。この道路の北側の親自在王院寄りには、車宿を確認しているが、基本的には道路の中である。親自在王院造営以前と考えられる遺構が同じ軸線を呈していることを勘案すると、造営以前は道路ではなく何らかの施設があった可能性がある。

また、石敷は南北方向に延びており、親自在王院に伴うと考えられる3号溝から14m離れ、同一軸線で位置するものの、道路に伴う玉石敷と様相が異なることから、道路との関係性を検討した上で判断する必要がある。整地層上面から掘り込んでいる遺構としてP1・2があるが、時期もはっきりしないこともあり親自在王院との関係性は不明である。



# 写真図版





調査区全景（上空から）



柱穴1（西から）



柱穴2（西から）



柱穴3（南から）



柱穴5（南から）

写真図版1 調査区全景・柱穴



北区東側（南から）



北区東側（南上空から）



根石状箇所2（東から）



根石状箇所（南西から）



根石状箇所1（南から）

写真図版2 根石状箇所



北区全景（上空から）



1号溝（北西から）



1号溝断面（北西から）

写真図版3 北区

石敷と1号溝（上空から）



1号溝（南東から）



1号溝断面（南東から）



写真図版4 北区 1号溝



北区・南区全景（上空から）



2号溝西側（断面17-18）



2号溝立ち上がり（北東から）



2号溝東側（断面35-36）



2号溝東側（断面27-28）

写真図版5 石敷・2号溝（1）



南区石敷箇所（南から）



石敷箇所と2号溝（北から）



2号溝立ち上がり（北から）

写真図版6 石敷・2号溝（2）



北区・南区石敷箇所  
(上空から)



北区石敷箇所・1号溝  
(上空から)



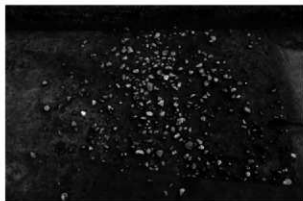
北区石敷検出状況  
(南西から)

写真図版7 石敷





2号溝（西から）



南区石敷検出状況（南から）



南区石敷の状況（北から）

写真図版8 石敷・2号溝（3）



南東区全景（上空から）



石敷検出状況（南から）



南東区整地（断面21-22）

写真図版9 南東区（1）



南東区整地と3号溝（北から）



3号溝北から（断面19-20）



11次調査5号溝断面（北から）

写真図版10 南東区（2）



南区・南東区（南上空から）



南区東側11次調査区（南から）



南区2号溝（西から）



11次調査2号溝（東から）



観自在王院 南西地区（南上空から）

写真図版11 南区・南東区



親自在王院倒木の状況



令和2年12月21日 南区（西から）



南区 調査前の状況（南東から）



調査終了状況（南西から）



北区 調査前の状況（北東から）



調査終了状況（西から）

写真図版12 調査前・終了状況

かわらけ



1

中国産磁器



2

国産陶器



3

近世磁器



4

写真図版13 出土遺物



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	めいしょうきゅうかんじざいおういんていえんはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	名勝 旧親自在王院庭園発掘調査報告書Ⅲ							
副書名	第12次調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第142集							
編著者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代)							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
親自在王院跡	岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山境内	03402	NE76-1052	38°59'15"	141°06'34"	20201120 ～20210325	125㎡	史跡整備を目的とした内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
親自在王院跡	寺院	12世紀	溝 柱穴 土塁 整地層		かわらけ 中国産磁器 国産陶器			
要約	<p>親自在王院跡南西側を対象とした内容確認調査の報告である。</p> <p>調査の結果、溝3条、南北方向の石敷、根石の可能性のある集石、柱穴を確認した。</p> <p>溝のうち、12SD 2は11次調査で確認した11SD 2の続きと考えられる。また、石敷はSD 2と重なるものの溝が途切れていることから、通路とも考えられる。</p>							

岩手県平泉町文化財調査報告書第142集

## 名勝 旧観自在王院庭園発掘調査報告書Ⅲ

－第12次調査－

印刷 令和4年3月25日

発行 令和4年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会  
〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2  
電話 (0191)46-2111(代) FAX (0191)46-2015

印刷 コンカツ印刷株式会社  
〒021-0021 一関市中央町一丁目7-16  
電話 (0191)48-5963